

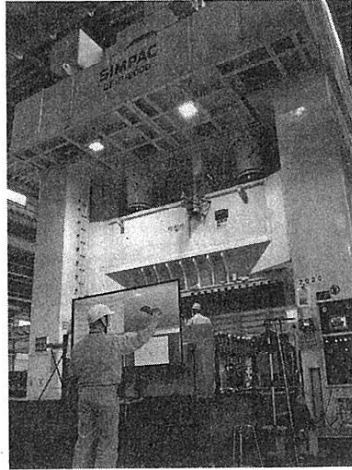
製造DXコンサル本格化

ツバメックス、3D設計ノウハウ提供

3年かかる熟練度 半年に短縮

東日本

【新潟】ツバメックス(新潟市西蒲区、多田羅晋田社長)は、製造現場のデジタル変革(DX)のコンサルティング事業を本格化する。セミナー・見学会を毎月1回開催し、誘客の場とする狙い。参加料は1人2万円(消費税込み)。独自に内製した3次元(3D)設計システム「TADD」の運用ノウハウを提供し、センサーなど機器販売も強化する。同事業で7年後をめどに売上高10億円を目指す。



①電源オン・オフを可視化した大型プレス機は、モニターで最新情報を見ながら操作。加工情報を蓄積して生産効率化にも生かす
②上流過程である設計が全体効率化の要



ツバメックスは、プレス・樹脂成型の設計・製造のほか、金属プレスによる量産加工、樹脂成形品や樹脂と金属の複合部品の量産が得意。1892年創業で2019年にサンスターグループ入り。自動車部品や歯ブラシの柄など幅広く手がける。

TADDは「Tsubamex Auto Die Design system」の略。上流工程を重視し、営業時の見積もりで詳細な情報を大量に入力する。設計者はあらかじめ設定したプルダウンメニューから選択するためのミスが少ない。新人が通常3年かかる熟練度を半年で出せるという。同社工場内では、各所のモニターやタブレット端末をTADDと接続。仕様変更などの最新情報を常時確認でき、生産管理もする一気通貫型システムとしても運用中だ。

またプレス機など全29台の加工機に、電源のオン・オフを検知するセンサーを装着。蓄積した情報により顧客が求める仕様を打ち込むと設計や加工などにかかる時間や部品購買情報、原価などの目安を出せる。

セミナー・工場見学会では、同社が長年かけて構築したTADDの運用など実地で案内する。1回の定員は1社2人で5社まで。多田羅社長は「こちらも本気。あえて有料としたのは参加者の本気度も見たいため」とした。コンサル事業は個別相談を受ける形で22年から実施。同事業の顧客の機器整備費用は100万円を想定する。